

# 大地の恵み

blessing of the earth

水土里の郷・平鹿

わくわく探訪 — 土地改良施設巡り —

vol.15

H26.3

- 「2013語り部交流会inあきた」 ～水と土、そのすばらしい農村風景を『継承』する精神～
- 一ノ目潟の『年縞』が語る、6万年分の堆積物
- 第14回美しく豊かな農村づくり  
写真コンクール(水土里ネット秋田)
- 農政大転換に向けた施策  
—日本型直接支払制度—
- 平成25年度活動状況報告



あきた 食料・環境・ふるさとを考える地球人会議

大地の恵み



vol.15

H26.3  
発行

発行編集 ●あきた 食料・環境・ふるさとを考える地球人会議

〒010-0967 秋田県秋田市雄勝藤巻町3番37号 秋田県土地改良事業団体連合会内  
URL <http://www.akita-midorin.net>

あなたの声が“原動力”!  
一緒に活動に参加しませんか。

【食料】

我が国の食料自給率は40%、もし輸入農産物がなかったら…  
食料自給率の向上は、私たち一人ひとりの課題です。



【環境】

「水」、「土」、「里」は私たちが生きるために必要です。  
今、安全・安心なものはどれですか？

【ふるさと】

緑豊かな田園、心の豊かさで安らぎ、そして人間らしさ…  
あなたは、子供たちに何を伝えますか。



「あきた 食料・環境・ふるさとを考える地球人会議」は、安全な食料の確保のため、環境に優しい社会の創造のため、そして緑豊かなふるさとを子供たちに引き継ぐため、みんなで考え、発言し、行動する組織です。一人ひとりの力が活動の原動力です。みなさんの参加をお待ちしております。

地球人会議の活動内容

- ①シンポジウムやセミナー等の開催と参加
- ②パンフレットや情報誌等の発行
- ③アンケート調査等による会員との意見交換
- ④インターネット等を活用した会員との情報交換

感想をお聞かせください。

「大地の恵み」は、皆さんの声を反映した情報誌にしたいと考えています。  
皆さんのご意見・ご感想をお待ちしております。

- ①「大地の恵み」の内容に対する意見・感想 ②地球人会議の活動に関する意見・感想

■水土里ネット秋田内 地球人会議事務局 TEL 018-888-2742 FAX 018-888-2834 E-mail:chikyu@akidoren.com

「大地の恵み」は地球人会議発行の情報誌です。  
地球人会議の会員や公的な機関および多くの方々が集う施設等で、  
回読誌としてご利用いただければ幸いです。



(シンボルマークについて)

緑豊かな地球を守り、未来へ手渡したいという地球人会議の願いを象徴しています。  
緑の地球をシンボリックに表し、芽生えた新芽は、会員一人一人の地球に対する優しい思いやりの心を表現しています。

# 2013 語り部 交流会 in あきた

平成25年10月10日、秋田県主催、地球人会議共催の「2013 語り部交流会 in あきた」が男鹿市で開催された。県や市町村、農地・水協議会や土地改良区などの関係者、及び一般の方々が一室に会し、約500名の参加となった。

基調講演を行った菅原徳蔵氏は「菅江真澄の愛した『男鹿』の農業・農村」と題し、江戸時代の紀行家・菅江真澄が今から約200年前に見た男鹿の水田や滝の頭、一ノ目瀉といった水源をなぞりながら、柳田国男や渡部彦松の人生と男鹿との関わり、また男鹿を代表する伝統文化「なまはげ」について講演を行った。

かたりすとの平野啓子氏は「語り」を通して知る農村風景の「継承」と題し、万葉集や菅江真澄の紀行文・和歌に見る日本の「農村風景」を、男鹿の風景とともに紹介。また、学習の一環として参加してくれた船川第一小学校の児童たちに、学校の教科書にも取り上げられている「稲むらの火」の語りを行った。

語りフォーラムでは、「水と土、そのすばらしい農村風景を『継承』する精神（こころ）をテーマとし、地元を代表して渡部男鹿市長、秋田魁新報社の安藤男鹿支局長、基調講演を行った菅原氏、前農林水産省農村振興局長の林田氏がパネラーとなり、様々な立場や観点からの意見を交わした。最後にコーディネーターの平野氏が「いつも当たり前のようにしている農村風景の継承、このためにはいかに多くの方々がそのおおもとなっている農地や水路などに関心を持って、そしてその保全に何らかの関わりを持っていくかということが大事になってくる」とまとめた。

この交流会で、多くの方が農業・農村のことを見つめ直す機会となり、地域の取り組みへの理解と協力が得られる共通のきっかけになればと思った。

## 菅原 徳蔵氏

あきた森づくり  
活動サポーターセンター 所長



男鹿の農村のように手入れの行き届いた勤勉な風景を見ると心が温かくなり、なまはげなどの行事を重ね合わせると田んぼが神聖な風景に見えてくる。このような地が耕作放棄地にならずに手入れされている裏には、なまはげものを戒めるなまはげのパワーが息づいているのではないかと、農地・水保全など相互扶助の精神が生きていて、自然と人間と文化が共存しているこの地域をずっと大切にしていきたい。

今年は大規模観光キャンペーンである秋田ディスプレインションキャンペーン、来年には国民文化祭が控えており、2020年には東京でオリンピックが開かれる。外国の方々も沢山訪れるこの機会にこそ、男鹿の農村風景のような文化的風景を観光・文化・振興の新しい柱に据えて、色々な方々にPRしてほしい。そうすることによって後継者育成にも繋がる。

## 平野 啓子氏

語り部・かたりすと、  
元NHKキャスター



真澄の紀行文の冒頭に出てくる「ほに（はき掛け）。昭和30、40年頃は稲刈り後の田んぼにごく当たり前に見られていた。そついった風景を作り出しているのは、農の営みが継続されてきた証であり、また、農地や水路を保全し続けてきた証でもある。私たちの身近には、普段当たり前のように田んぼや畑・水路やため池などがあるけれども、その誕生の背景がそれに関わった先人の苦労の歴史を学んで語り伝え、そしてそれらを保全する活動に取り組むことが、大きな心の支えとなり、地域の絆や、今後の活動の継続に向けた結束を強める原動力になると確信している。そして、実はほになどの風景が残っていることにより、「こういう風景があるから『稲むらの火』っていう物語が生まれたんだ」と言、日本の中で文化と呼ばれている色々なものを説得するためのすばらしい材料、本物の資料になる。

これから未来を担う子供たち、外国から来る人たちに、日本の文化というものを伝えるときに、この風景があるからこの文化が生まれたんだと分かる元々の風景を残しておくことが、日本の文化の支えになる。そのためには美しくすばらしい農村風景を農家の方々も農家以外の方も大人も子供もみんな、一人一人が心から大切に思うようになることが、なによりも大事ではないかと思う。



# 語りフォーラム

## 水と土、そのすばらしい農村風景を『継承』する精神



●コーディネーター  
ハネリスト  
平野啓子（語り部・かたりすと）  
渡部幸男（男鹿市長）  
安藤伸一（秋田魁新報社男鹿支局長）  
林田直樹（前農林水産省農村振興局長）  
菅原徳蔵（あきた森づくり活動サポーターセンター所長）

### 事例紹介

●平野 氏  
始めに、本日のテーマであります、農村風景に関連する事例をお二人のハネリストにご紹介して頂きたいと思えます。最初は、ご当地・男鹿市長の渡部様をお願いいたします。渡部様には、男鹿市のすばらしい農村風景のおおもとになっています。農地や水路などの保全に関してお話して頂きます。

●渡部幸男（男鹿市長）  
語り部交流会をこの男鹿市で開催して頂いて、多くの皆様に男鹿において頂きました。男鹿

の良いところを見ていただく事によって、男鹿市民にとっても自分たちの良さを再認識できる機会を頂いています。

男鹿の農村風景・原風景を保つために、「農地・水・環境保全向上対策事業」が、真山山継承会、安全寺里山保全会など9つの地域で取り組まれています。活動内容は、泥上げや倒木の処理、草刈りや田んぼアートに至るまで様々。男鹿の農村風景がすばらしいのは、こうした地区レベルの地道な活動を通して、先人の教えに基づき今を生きているからこそ、皆さんからほめて頂ける風景を保っているのだと思っております。

男鹿市では、2人の写真家の方に年間を通して写真を撮って頂いています。1人は女性の「小松ひとみさん」。もう1人は、冒険写真家の「豊田直之さん」。自分たちが居ても気が付かないような風景の切り出し方を下さるので、新たな発見や風景の再認識をすることが出来ます。皆さんが「良い」と言ってくれる風景があるというのには、男鹿市にとっても誇りです。



こうした活動を続けていくことによって、農を営む水を大切にすること、そしてそれが農村風景を保つことを引き継いでいくことになつていくと思えます。今日来た子供たちに限らず、この大事な風景を引き継ぐ精神を次の世代に受け継いでいかなければならないと思っております。

と落としてみますと、非常に限られた人数で、農地や水路を保全していくための大変なご苦労があつて、できあがつたものを見るだけではだめなんだなと感じました。そしてまた、地域の方々が、こういう場所を顔を合わせる機会ができて、そんな風にも思つて聞いておりました。とにかく、すばらしい写真の連続、そこに渡部市長さんの語りをもつて、すてきな空間がここでも頂けたと思っております。これから子供たちにも是非伝えて頂きたいと思っております。市長さん大変たいはいから、全学校を回るというわけにはい



きませんものね。会場の皆様今日お聞きしたお話を、是非ほかで、逆に皆さんの心に残つたことを語っていっただけではないと思えます。

●安藤伸一（秋田魁新報社男鹿支局長）  
男鹿に来て1年半、まだまだ未熟な私ですが、ここで暮らして、先人の残した大切な資産を活かし、これからも男鹿の生活を営んでいこうとする姿勢が多く見受けられます。

魁新報の誌面の中で、「水と土」という企画がありまして、気付いてみると、男鹿の農村風景や、水を守る人々の取り組み、それを守ってきた人たちの今現在；等の記事が、意識せずとも多くなつてしまっています。それだけこの男鹿の地にどういったものが長いものにどういったと、長い間人々が水源や農地、それを維持するためのコミュニケーションを大事に守つてきて、今なお活かせる状態に残してきた

からであると思えます。

特にこの地の生活にとつて忘れてはならないのが、かつて掘られた水路を改修して、何十年何百年もの目湯の水を利用していったもの改修工事を行つていく。「一ノ目湯改修」の話。その歴史を語る上で、「内田金三郎」と「田沼慶二」、この二人が関わった水路トンネルのことについては、今一度調べ直してしっかりと記録に残し、検証してほしいと思えます。この工事の取材を始めたときにはもうすでにトンネルを拡張して、大きな穴を開けてしまつていて、改修の後を見ることは出来ませんでした。手彫りの小さなトンネルですけれども、私はこの目で見なかつたことを非常に後悔しています。この工事に携わって下さった奥の方々、さきほどの菅原さんも講演の時にも沢山写真を撮られてるようですから、そのときの写真等をつまく活用して、昔ながらの水を使ってきた方たちの話を沢山交えながらいい記録を残してくればと強く思っています。

●平野 氏  
ありがとうございます。きつとやっぱりマスコミの中のトップ、一流の方だからこそ、こういう風にしかつたという思いが強くてたのではないかな

と。元々すぐレベルの高いことをなされているんだということ。今の記事を拝見して思いました。マスコミの方が、こうやって広く発信して下さることだと思は、とても頼もしいことだと思えます。農地や水、農業・農村に関する情報発信、こうやって

### パネルディスカッション

●平野 氏  
それは、これまで皆様の話を伺つてきましたが、ここで農林水産省の前農村振興局長の林田様に、これまでの講演や語り、そして地元での講演を聞かれてのご感想も含めて、農業や農村についてお話を頂きたいと思えます。

●林田 氏  
本日の語り部交流会は、テーマが「水と土、そのすばらしい農村風景を『継承』する精神」ところ、ということですが、非常にまとまつたすばらしい題材とコンセプトだと思えます。約200年も前に菅原貞澄が見た

集まつたところでの語り継ぎというのでも大事ですが、一方こうやって、ここに来られない方にダイレクトに届けたいかなければならない情報発信の中です。すばらしい記事を書かれています。これからも是非よろしくお願いたします。

男鹿地域の多様な豊かな地域資源を後世に語り伝えようとして書き記された風景。実は昨日と今日、現地に入つて見させてもらつたんですが、「あり絵と同じだ」と似たような風景に沢山出会えまして、当時をしっかりと思い出すことが出来るものだと感じました。それと、菅原さんの講演。菅原貞澄の紀行文自体そこから伝わってくる当時の農村や農業の情景についての、まさに日本の原風景と思えます。それが男鹿地域に残っている。全国的にも希な大きな財産だと改めて思いました。そして、「一ノ目湯」「滝の頭」にまつような水田開発、水路開発の歴史、こういったお話を伺いましたけれど

も、先人の苦勞がすごく伝わってくるなど、そして我々はその忘れてはいけないという思いを強く致しました。安藤支局長さんの話にもありましたけれども、こういうお話を今日お集まりの皆様にもしっかりと認識して頂いて、語り継いでいっていただければと思いました。安藤さんの話の中で、やどばりと思つたのは、地元の人でも知らない人が多いというお話でした。私ども、日頃なんとなく自覚していることですが、上手く情報発信ができていないなと思つて指摘いただきました。そういうことがないように、今後も一生懸命頑張っていきたいと思いたくを申し上げて下さつたこと、それを、また渡部市長さんの言った中に、実は原稿がないことを申し上げて下さつたこと、農地・水向上対策の事を、市長さん自身が写真を伴つてプレゼンされたこと、こういうのに





の泥さらいも20軒でやっていました。ですけど、規模が大で外国にも負けない農業にしようというのを目指していますから、どうしても農家自体が減っています。土地を賣ってじゃあ任せるっていうことで進んでいく訳です。そうすると、大きな機械もあるし、新しい技術もありますから農業は出来ます。でも水路の泥さらいとか1人でやるっていうのは到底無理です。農業は出来ても、こういう

出会ったのは私初めての事で。それは私たちが行政で、こういう仕事を市長さんに説明して、大事な取り組みですからどうか市の方でも、予算をつけて下さいとお願ひに行ったりするのですが、市長さん自ら、農村で農家だけではなくて農家以外の人と一緒に協同で草刈や水路の泥さらいをしらするんですよ。よって・お集まりの皆様の前で話されたのを見て本当に感動しましたし、ありがたいという風に思いました。水路はですね、10キロとか20キロとかある場合があるんでね。そこに田んぼがあって、昔は20軒でやっていたので、當農も20軒、水路

管理は出来ませんが、そういうところは依然として沢山の人が入ってらって一緒に春と秋にやってほしいといったような目的でやっている取り組みです。みなさんに市長さんの方からどうかご理解頂いてご協力をして頂ければと思います。

### 文豪が目を向ける農村風景とは？

●平野氏  
ありがとうございます。実は林田前次長さんは、非常に文学や芸術に幅広く、色々なものに造詣が深い方です。ここで少しサブライズ・インタビュをさせてもらいたいと思います。

実は私の生まれは静岡県沼津で、近くに伊豆半島があり、天城の方で井上靖が色々書いているものがあった。その中にはわさび田のことを称えるような文章があり、村の風景や人情がちゃんと反映したのになっていいます。そこでわさびなら、わさびが生まれる。その良さっていうのとリンクしている話で、自分の村がわさびを産することを誇りに思っている。金や銀を産してくれるよりどんなにわさびを産してくれることの方がありがたいだろう、なんて言う文章を伊豆の人たちに向けてPRするように書いてある文章があるんです。こういう文豪が目を向けている農村風景っていうものに私はすごく興味があるのですが、林田前次長は昨日、干拓で有名な大瀧村に行かれたと、何でも、干拓に関すること、日本の文豪ではなく、みなさんもよく知っているヨーロッパの文豪が、つて自分の国のこと、あることを愛していること、下はそれと、我々たちにお話し下さればと思います。という

文豪の、そしてこの農に対する干拓に対する語りをご披露頂きたいと思うのですが、みなさんよろしいでしょうか。(拍手)

### 「共同の精神に一心を捧げる」文豪ゲーテの思い。

●林田氏

突然お邪魔して申し訳ありません。私の話は今日の全体の話から言うと、先ほど思ったんですから、刺身とかについているような「パセリ」みたいな。食べられないような、飾りのようなだけどここにある、そういうたような感じで聞いて頂ければと思います。

今お話があった干拓とか農地開発とか、現地で渡部幸松さんのお話を伺いました。ずいぶん昔に八郎潟の一部で干拓や埋立に取り組まれて、農地を開発して、水を持って来るという事ですね、そういう努力をされた方で、「あ、そうだ」と思った訳です。実は、つい最近読んだ本で、ドイツの詩人であり、皆さん名前はお存じだと思います、ゲーテという人ですね。ゲーテという人は、沢山の本を書きました。長生きで最後まで元気だったもので、その人が一生をかけて書いた本に「ファウスト」というのがあります。これは、着手から完成までに60年に至ったという、本人はそれができあがった時にはもう死んでいい、やることやったというくらいに自分のすべての思いを書いた本です。その中に、農地開発や干拓が大事だと言うことがあったので、



当に大事なことを教えてくれたら死んでもいい、魂をお前にやる」と。こういう契約をします。そして、魔法の力でくつと若くなって20歳くらいになるんです。それでいろんな事を、享楽の限りをします。若いグレートヒエンと恋愛をします。それは、その女の子の死という悲劇で終わってしまう。それで「ためだ」となって、次には歴史と

か、美しいもの、美しい景観や基礎とかそういうものをみたいというところで、色々なことを魔法の力でやるんです。けれども、ヘレナという女の人の死で終わってダメになるんですね。この話長いんですが、どうとう最後のところで本人がやるうとするのが海岸地帯の湿地帯を開拓して、農地を作っている人々に住んでもらうんだという、こ



れをやろうと決意するわけですね。それも一人ではできないから、魔法の力でやるんです。そして農地が出来て、干拓ができあがりつつある、だんだん見えそうになったという時に、その最後の最後の本当に最後なんです。『あの山脈に沿って背負った土のつげが、これまでが開拓した農地がすっかり細くなっていく。あの、腐った水垂にはけ口を作るというのが最後の仕事であり、同時に最高の開拓事業でもあるのだ。俺は数百万人の人々に、安全とは言えなくても働いて自由に住める土地を開いてやった。野は緑に覆われ、人々も家畜も、すくさま新開の土地に気持ちよく、大胆で勤勉な人が盛り立てたカッチリした丘のすぐそばに移住して、外側では塩水が岸壁にまで流れ狂っていても、内側は楽園のような国だ。そして海水が強引に浸入しようとしても、共同の精神によってこれをふさぐと人が駆け集まる。そうだ、俺はこの共同の精神に一心を捧げる』締め最後の結論はこういうことになる。「自由も生活も、日ごとこれを戦い取ってこそこれを享受するに値する人間と言えるのだ。従つてここでは子供も、大人も、同時に持つて危険に取り巻かれながらも、有意義な年

月を送るのだ。俺もそのような群衆を眺め、民とともに自由な土地に住みたい。そうなたら、瞬間に向かってこう呼びかけてもいいだろう。『止まれ、お前は美しい』と。』つまり、お前けれども、この最後の言葉が最初の契約の時に、この言葉を口にしたら死んでもいいよと言った言葉でしたから、ファウストはその瞬間に死んでしましました。そのとき100歳です。しかし、悪魔はそれを取って地獄へは持つて行けなくて、一生懸命やって達成感を得た人なんて、実は天国に行くという、こういうお話であります。簡単に話しましたけれども、これはドイツが誇るゲーテが60年かけて書いた、ファウストという登場人物が言った台詞ですが、ゲーテの思いが入っているんですね。その中で、農地開発は大事な仕事だ、そして、共同の精神が大事なんだと言っている。これを読んで、まさに今日の語り部交流会のコンセプトのテーマに通じるものがあると思ひました。個人的なんですけど、非常に思ったものですから、少し紹介させていただきます。

### 「農村風景の継承」と先人の足跡の結びつき

●平野氏

貴重なお話、ありがとうございます

いました。ちなみにこの話はオペラにもなっていますが、オペラには今日の部分は入っていないというところで、そういう意味でも、今日はなかなか聞けない話に触れたらいいかなと思います。

それでは、林田様からのゲーテと農地の話について語りが終わったところで、今度は菅原様にお伺いさせて頂きたいと思ひます。菅原様、先ほどの基調講演の中で渡部幸末の足跡、一ノ目潟の隧道掘削の歴史などについてお話を頂きましたが、農村風景の継承とそれらの歴史や先人の足跡を振り返ることの関係について、もう少し詳しくお聞かせ願えなでしょうか。

### 先人に学び、未来を拓く！

●菅原氏

まず、地球人会議の会長さんから、先ほど過敏なお言葉を頂きました。ちょっと恐縮したところですが、先ほど渡部幸末の地域について、先ほど渡部幸松のお話をしましたけれど、八郎湖をはさんで対岸には、秋田県農業の神様である石川理紀の助の話も思ひましたが、それは第一回目のお話をしたので、今日はちょっと省略しました。この方は皆さんご存じの通り、秋田県農業の最大の祭典で

ある「種苗交換会」の創設者でもあり、そのテーマが「先人に学び、秋田県農業の未来を拓く」ということです。やはり苦しいとき、先が見えない時代になればなるほど、私はやはり先人に学ぶ、あるいは過去の歴史に学ぶかならないかと思えます。渡部彦松のような先人を拜むことによって、やはり、地域の皆様方の心の支えにもなりますし、地域の光景を維持するにも、村



ぐるみの相互扶助、あるいは迷惑の掛け合いという精神な訳ですけれども、それを反復する意味でも、欠かれないものであると思います。それから「なまはげ」の文化も、基本的には地域の相互扶助の精神を結集すると言いますが、忘れてはならないもので、そういった歴史・文化を大切に語り継いでいくことが地域の未来を切り開くキーワードになるのではないかなと思っております。それから、観光文化振興については、菅江豊澄をキーワードに意見交換会を行っております。キーワードをお借りしますと、「菅江豊澄の記憶に学び、男鹿の観光・文化・振興の未来を拓く」という風に私はやれば良いかなと願っております。

中山間地域の果たす役割とは？

中山間地域とは？  
平野 氏  
ありがとうございます。ありがとうございます。では続いて、安藤様にお伺いしたいと思えます。安藤様は平成21年の魁新聞連載

企画「最高！秋田農業」のキャットプをおとめられて、特に中山間地域における様々な取り組みについて取材された、ということだつたんですが、農村風景の継承という視点で中山間地域の果たす役割について、お感じになりましたか？

身の回りにある事を大切にしながら生きていける。

安藤 氏  
中山間地域という言葉、今月初めて出てきたと思いますが、農業の多面的機能とも言えるのにならなくて行政の方派山の中で思っているんですが、ちょっと僕はこの言い方あんまり好きじゃなくて、どう言ったらいいのでしょうかね。大きな経済に結びつくようなことは農村風景ではないかと思えます。でもそのかわりもって大事なものがあろうではないかと。すっきりした言葉でお話することが出来ないと思えますけれども、2人の若者の話をしようかなと思えます。

で、こういう事業をやっています。当然のことながら、ため池など大規模な工事というのは市がやりますし、さつきも話しましたが、材料支給等というのは市がやっていくと。精一杯私たちが出来る範囲で応援していこうと思っております。

平野 氏

ありがとうございます。それは、時間もたんだん押ししてきましたので、最後に安藤様、渡部様、菅原様に今後の地域作りや地域振興という観点から、農村風景の継承というテーマが持つ意味について、皆様の思いも含めて一言ずつ締めくくりに話を頂ければと思います。まず、安藤支局長をお願いします。

農村風景が、人が住み続ける基盤になる！

安藤 氏

農村風景があるからこそ、そこに戻ってきて新たに自分たちの誇れるものになると思えます。私も男鹿に住み始めて外から、東京あたりから友達に来る度に、滝の湧頭水、安全寺の棚田の風景なんかを連れて回って、みんながみんな、感動してくれているんですけど、そういった誇りを持っているのだと思えますね。そういったものがあるからこそ、将来に向かって、人が住んで生

レイに改装してお山の風景もよく見える、真山・本山もよく見える場所にカフェをオープンした。この2つのカフェが僕らは好きでよく行くんですが、この2つのカフェを経営する経営者は2人とも30代と若い。2人に共通するのは、目の前に広がる風景に誇りを持って、これを大事にしなければいけない。そして自分の生きていくための生活していくための手段として十分持っているという強い気持ちを持って、それぞれがそれぞれ学校の講師、サラリーマンだったんですが、仕事を辞めてカフェをオープンしました。何年か経って五里合琴川の「珈音」では、喫茶店の前の田んぼを耕している人が、「珈音」が夏の間、蛍を見物にしているというところに非常に共感して、お店の前の田んぼは無農薬でやっても、蛍が集まるようになって、もって蛍が集まるようになって、そして今年、先ほど平野さんのお話で「ほにぎ」について。そして今年、先ほど平野さんが、真山では、「ほにぎ」の前の田んぼは「ほにぎ」がすうとと並んでたんですね。聞いたら、頼んでないんだけど、前の田んぼをやっている人がこのカフェに合わせてやってくれたというのだと。蛍の時期の「ほにぎ」音「福刈り」の時の「ほにぎ」

とてもすてきで、居心地が良く、すばらしい場所になっているんですよ。農村風景の継承を目的に田んぼや水路を守ってきたわけではないと思います。自分たちの生活、あるいは昔からの生活様式を受け継いだことによって、そのまま残ってきたということなんです。そのことによって、若者が誇りを持って、ここに生きていくための基盤になるようなものがそこ自然とできあがっていたという事です。中山間地域で農業活動を維持するというのは、目の前に起こっていることを自然に考えてみると、若者が地元で自分たちの身の回りがある事を大切にしながら生きていけるということにも結びつく。今言った2つの事例は、この2つの店に観光客が訪れて、ものすごく流行るって言うような事にはならないと思うんですね。生きていることにしかり誇りを持ってない、そのことによって、自分が生きていくって、子供の世代まで受け継ぐものが残ってる。そういったことがちよつとずつ増えていくことによって、地域が少したけ元気になる。少したけ元気になるというところはものすごく大事で、人が手を入れて守り次いできた農村風景といた方が住んで、将来に希望を持って生きていけると

いったようなことが起こるのではないかと。そんなことを感じました。

平野 氏

次に渡部様には、最も現場に近い市町村行政のお立場から農地や水路の保全、そして農村風景の継承において、主として地域の取り組みをどのように支援・サポートしていく必要があるとお考えでしょうか。教えてください。

地域の繋がりが強まる：農地・水保全活動の取り組み

渡部 氏

男鹿市では先ほど申しました9つの地域が農地・水保全事業に取り組んでいます。これを男鹿市全域に広めて行きたいと思えます。同時に語り部で平野先生が防災のことをおっしゃいましたけれども、町内会交付金制度ということで、防災組織あるいはお祭り、盆踊り、12月31日のなまはげ行事があることで町内会に交付金を差し上げています。そういうことによつて地域のまとまりが広がっていく、集まりの回数が増えるということによって地域のつながりが強まる。これがまた農村のこととか、農地・水保全事業をやる良いきっかけになるということ

男鹿の田園風景をいつまでも残したい！

渡部 氏

男鹿市の大きなテーマは、教育・環境・観光です。水を大事にして農地を耕していけば、それが開会の冒頭に、県の難波次長がおっしゃった「それ自体が観光資源になる」というものです。観光資源を極めれば、いつの日かまた語り部の方に男鹿の田園風景、美しい農村風景を和歌で詠んで頂けるような、そういう風景を残していきたいと思っております。

安全性、付加価値の高い景観づくりを...

菅原 氏

「なまはげ大橋」から眺める地域は、今はまだ未整備の状態になっていきます。農道もあまりありませんし、おそらく維持管理に相当な努力がかかっていると思えます。安全寺集落の方もいつまで維持できるのか、それに対する補助なり支援なりも強

日本農業がアジア・アフリカの子供たちを救う  
林田 氏  
正直申しまして、今平野さんからリクエストがあったことについて、私が伝えられることはほとんどないと思えます。本当にすばらしいことだと思えます。1つだけ違うことを付け加えさせていただきます。去年もここに来ましたが、食糧事情のことをちよつと話しました。去

平野 氏

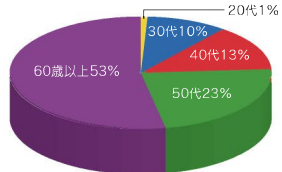
最後に、林田様からご感想とともに男鹿に対するアドバイスなどもお願ひします。



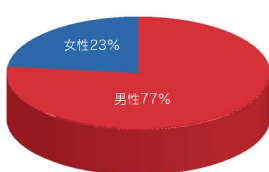
# 「2013 語り部交流会 in あきた」アンケート結果

## 参加者の内訳

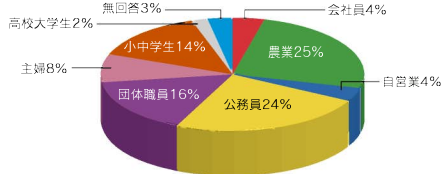
Q.参加者年齢



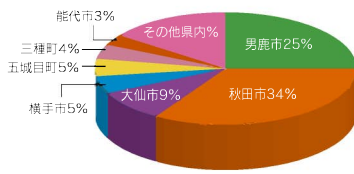
Q.参加者性別



Q.参加者職業

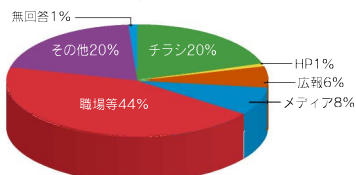


Q.参加者住所

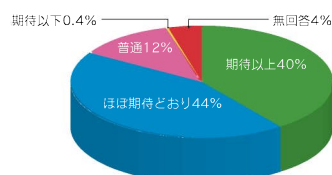


## 質問への回答

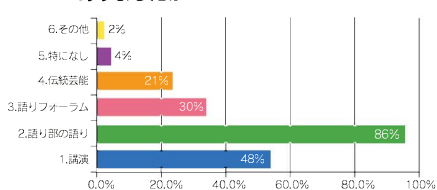
Q.今回の語り部交流会の開催を何で知りましたか？



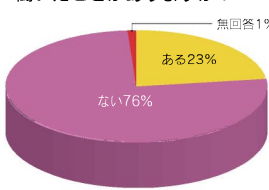
Q.今回の語り部交流会の内容はどうでしたか？



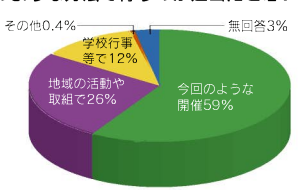
Q.今回の語り部交流会に興味を引いた内容がありましたか？



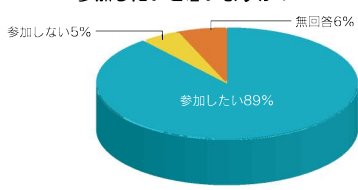
Q.今回のお話をこれまで聞いたことがありますか？



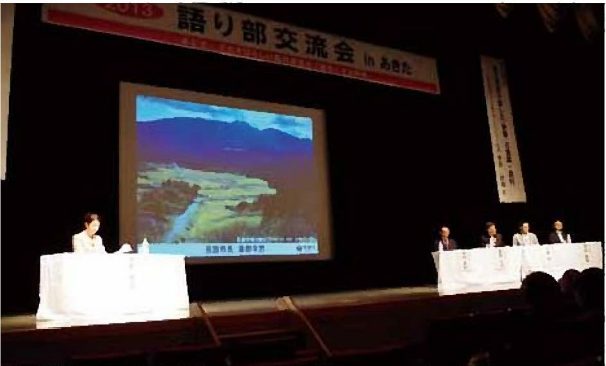
Q.今後このような語り部の会を行う場合、どのような方法で行うのが適当だと思いますか？



Q.次回も、同様の語り部交流会があったら参加したいと思いますか？



年々高騰してきたものの、昨年は穀物価格が非常に高騰してアメリカの干ばつで大変な時期でした。2013・2014年にかけては、世界的に見れば穀物は非常に豊作です。その結果、今年1年で食べられる消費量を上回るものが生産される見込みになっています。それで少し価格が下がりました。ところが、今年9月末現在ですね、2006



年々高騰してきたものの、昨年は穀物価格が非常に高騰してアメリカの干ばつで大変な時期でした。2013・2014年にかけては、世界的に見れば穀物は非常に豊作です。その結果、今年1年で食べられる消費量を上回るものが生産される見込みになっています。それで少し価格が下がりました。ところが、今年9月末現在ですね、2006

年々高騰してきたものの、昨年は穀物価格が非常に高騰してアメリカの干ばつで大変な時期でした。2013・2014年にかけては、世界的に見れば穀物は非常に豊作です。その結果、今年1年で食べられる消費量を上回るものが生産される見込みになっています。それで少し価格が下がりました。ところが、今年9月末現在ですね、2006

●平野氏  
ありがとうございます。語リフォーラムでは、皆様から今日のテーマであります農村風景の継承や、農村風景を作り出している農地や水路などの保全といった観点から、さまざまご意見を伺いしてきました。その中で私が感じましたのは、繰り返しになりますが、日本の国の子供

年々高騰してきたものの、昨年は穀物価格が非常に高騰してアメリカの干ばつで大変な時期でした。2013・2014年にかけては、世界的に見れば穀物は非常に豊作です。その結果、今年1年で食べられる消費量を上回るものが生産される見込みになっています。それで少し価格が下がりました。ところが、今年9月末現在ですね、2006

年々高騰してきたものの、昨年は穀物価格が非常に高騰してアメリカの干ばつで大変な時期でした。2013・2014年にかけては、世界的に見れば穀物は非常に豊作です。その結果、今年1年で食べられる消費量を上回るものが生産される見込みになっています。それで少し価格が下がりました。ところが、今年9月末現在ですね、2006

年々高騰してきたものの、昨年は穀物価格が非常に高騰してアメリカの干ばつで大変な時期でした。2013・2014年にかけては、世界的に見れば穀物は非常に豊作です。その結果、今年1年で食べられる消費量を上回るものが生産される見込みになっています。それで少し価格が下がりました。ところが、今年9月末現在ですね、2006

年々高騰してきたものの、昨年は穀物価格が非常に高騰してアメリカの干ばつで大変な時期でした。2013・2014年にかけては、世界的に見れば穀物は非常に豊作です。その結果、今年1年で食べられる消費量を上回るものが生産される見込みになっています。それで少し価格が下がりました。ところが、今年9月末現在ですね、2006

年々高騰してきたものの、昨年は穀物価格が非常に高騰してアメリカの干ばつで大変な時期でした。2013・2014年にかけては、世界的に見れば穀物は非常に豊作です。その結果、今年1年で食べられる消費量を上回るものが生産される見込みになっています。それで少し価格が下がりました。ところが、今年9月末現在ですね、2006